

産学官民連携
あいちユース
SDGs
アイデア アクション
IDEA & ACTION
Activity Report



あいちユース
SDGs
IDEA & ACTION
Activity Report





産学官民連携

あいちユース SDGs IDEA & ACTION

Activity Report

Contents

Report
p1.2

1

愛知教育大学教育学部大鹿研究室3rdグループ
刈谷グローバルフェスタ



Report
p3.4

2

愛知淑徳大学 学生団体エコのつぼみ
TAKESUMIがつなぐ あいちの輪



Report
p5.6

3

AZ CONNECT (中京大学)
学生主体のエコアクションで海洋プラスチックゴミ問題
の意識を高めるプロジェクト



Report
p7.8

4

中京大学経営学部齊藤ゼミ
Vegeel : 規格外野菜とウナギの頭を使って
保護犬を元気に!



Report
p9.10

5

FoodTube (中部大学・南山大学・中京大学)
食の総合情報アプリ「DISH WITH」の開発による
SDGs未来都市への貢献



はじめに

愛知県では、全庁を挙げて2030年のSDGs達成に向けた取組を推進するとともに、県民を始めとした様々なステークホルダーの取組を促進しています。

その一環として、若い世代の具体的な行動につなげるため、県内の大学生等のグループからSDGs達成に向けた取組アイデアを募集し、優れたアイデアについてはモデル事業として支援する「あいちユース SDGs IDEA & ACTION」を実施しました。

この冊子は、モデル事業に選定された5組の学生グループによる取組アイデアの実現過程と、その成果を記録したものです。2024年7月下旬から2025年2月にかけて、学生たちがそれぞれの感じる社会課題に向き合い、解決に向けて創意工夫を凝らし、数々の困難を乗り越えながら、アイデアを形にしてきた彼ら、彼女らの挑戦を紹介します。

また、本冊子が、他の若者たちや地域社会にとっても、SDGs達成に向けた新たな一歩を踏み出すきっかけとなれば幸いです。

あいちユース SDGs IDEA & ACTION

SDGs取組アイデア の募集概要 及び結果

応募対象者 県内の大学、短期大学、大学院、高等専門学校(4年生以上)、
専門学校(高等課程を除く)のいずれかに在籍している学生のグループ

募集期間 2024年5月1日(水)から2024年6月28日(金)まで

対象事業 SDGs達成に向けて新たに実施する取組

支援金額 上限30万円

応募件数 16件(7つの大学及び1つの専門学校の学生グループ)

選定件数 5件

スケジュール

2024年5月1日(水)~6月28日(金)	大学生等のグループからアイデア募集
7月19日(金)	モデル事業として5件を選定
7月下旬~8月	アイデアの実施に向けた詳細検討
9月~2025年2月	取組の実施
2025年3月29日(土)	愛・地球博記念公園において、愛知万博20周年記念事業の一環として、成果発表会の開催

SDGsとは

SDGsとは、2015年に「国連持続可能な開発サミット」において採択された17の持続可能な開発目標のこと。2030年までにこれらの目標の達成を目指しています。

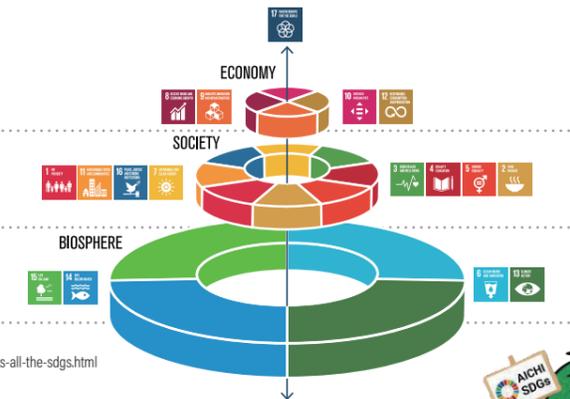
SDGsの17の目標は、「経済」「社会」「環境」という3つの分野に大きく分けることができます。下の図では、経済分野は社会分野に、社会分野は環境分野に支えられ、3つが密接に関わっていることを意味しています。さらに、3つの分野の課題を解決するためには、みんなで力を合わせて解決に向けて協力する「パートナーシップ」が重要になります。

経済分野
働き方、イノベーション、生産・消費など

社会分野
貧困・飢餓、健康、教育、まちづくりなど

環境分野
水、森林、海洋資源、気候変動など

【持続可能な】 Sustainable Development Goals 【開発】 【目標】



〈参照〉 Stockholm Resilience Centre
<https://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2016-06-14-how-food-connects-all-the-sdgs.html>
(原図) Jerker Lokrantz/Azote
(考察者) Johan Rockström & Pavan Sukhdev



あいちSDGsアンバサダー

取組アイデア名

刈谷グローバルフェスタ



愛知教育大学教育学部
大鹿研究室3rd グループ

@glocalfestival @saga.202004

私たちは、環境教育を始めとする理科教育の研究に取り組み、その核となるSDGsを中心に環境保全啓発活動を行っています。

愛知県内の各地で開催されるイベントや商業施設に出品し、開発したSDGs教材の体験機会を提供するとともに、小学校での出前授業も実施しています。

取組の概要、目的

多文化共生社会の実現に向けたきっかけをつくりたいと考え、外国人との交流イベントを刈谷駅きたくる広場で開催しました。刈谷市をはじめ、国内の外国人居住者は年々増加していますが、私たちが日常生活で交流し、互いの文化に触れる機会は限られています。そこで、私たちの研究分野であるSDGsと外国文化を組み合わせ、地域住民が交流できる企画を考えました。

取組・活動 01 企業のSDGs活動とSDGsスタンプラリー

角文(株)、シーホース三河(株)には体験ブース、アサヒ飲料(株)、(株)折兼、トヨタ車体(株)にはSDGs紹介ブースの出品にご協力いただきました。各ブースを通じて、子どもから大人まで楽しくSDGsを学ぶ機会となりました。また、会場全体を巡るスタンプラリーを開催し、子どもたちが楽しそうにスタンプを集める姿が見られました。さらに、エコラベル飲料(アサヒ飲料(株)提供)やSDGs関連グッズを配布し、会場を盛り上げました。



スタンプラリー
台紙は自作
です!



イベント運営って大変!

気付けば大幅な予算オーバーで、このままではイベントが開催できない!と頭を悩ませました。思い切って刈谷市や地元企業に相談したところ、イベントの趣旨に賛同してテントや備品をお借りでき、開催にこぎつけることができました。相談する前は「学生なんて相手にしてもらえないのでは…」と不安でしたが、自分達の思いに共感してもらえてとても嬉しかったです。

取組・活動 02 地域団体と留学生による外国文化紹介

愛知教育大学外国紹介ブースでは、韓国、中国、台湾からの留学生が日本との違いやそれぞれの文化を紹介し、歓談や体験が行われました。

また、刈谷市のベトナム人コミュニティVNCからも、ベトナムの文化について紹介して頂きました。来場者には、ベトナムのお菓子の試食や、ベトナム発祥の伝統的なスポーツ「ダーカウ」という、足や体を使ってシャトルを落とさずに蹴り合う競技を体験してもらい、外国文化を肌で感じてもらうことができました。

留学生や地域の外国の方と仲良くなりました!



取組・活動 03 外国の料理を食べながらエコ活動!



外国文化を身近に感じてもらうため、トルコ料理のケバブやベトナム料理のフォーなどを提供するキッチンカーに飲食販売を依頼しました。

容器はさとうきびの搾りかすが素材である「バガス容器」(株)折兼提供)を使用し、外国文化とSDGsを同時に意識していただけるように工夫しました。

取組・活動 04 SAGAによるSDGs体験



愛知教育大学の学生団体SAGAも出展しました。「エコスタイル」と呼ばれるエコマークの周知を図る教材と、食品ロスの削減を目的としたカード型教材を用意し、たくさん子どもたちに楽しく学んでいただくことができました。

自作のチラシを刈谷市内の全小学校に配布するなど、広報を工夫した成果が出たと思います!

活動を終えて

当日は、子どもからお年寄りまで幅広い年代の方々にお越しいただきました。刈谷市在住の外国人と地元住民が交流し、外国文化に触れる場面が多く見受けられ、フェスタの目的であった多文化共生社会の実現に向けた第一歩となりました。

また、来場者のアンケートでは「SDGsを身近に感じることができた」という意見が多数寄せられ、日常生活の中でもSDGsの取組が可能であることを伝えられる機会となりました。今後は、本イベントを一度きりで終わらせるのではなく、次世代や他地域へとつなげられるよう取り組んでまいります。



先生からのコメント 愛知教育大学 理科教育講座・教授 大鹿 聖公



今回、イベント主催した3年生6人は、日頃は4年生、大学院生から指導を受けながら一緒に活動していました。今回のフェスタでは、一番若い彼らがリーダーとなって、先輩たちを巻き込みながら、努力と熱意で素敵なイベントを企画、運営してくれました。ナイス!

取組アイデア名

TAKESUMIがつなぐ あいちの輪



愛知淑徳大学 学生団体
エコのつぼみ

@ekotsubo_2022

私たちは、愛知淑徳大学の学生ボランティア団体として、モリビトの会（美浜町竹林整備事業化協議会）さんと竹林整備を行っています。また、間伐した竹を有効活用し、地域イベントの出展、小学生向けのワークショップなどを実施しています。

取組の概要、目的

放置竹林の問題の解決に向けて、普段の活動において竹林整備に取り組む中で、里山保全が人手不足によって難しい現状にあることを知りました。そこで、住宅地と里山が共存した環境をこれからも守っていくために、NPO、企業、福祉施設と協力し合い、県民に対して環境保全に対する啓発活動を3つ企画しました。

取組・活動
01 竹林整備に一緒に行こうツアー

環境保全活動・竹林整備の次世代の担い手を増やすため、モリビトの会さんの協力のもとツアーを開催し、学生・社会人合わせて12人が参加しました。

当日は、放置竹林の問題について説明した後、間伐体験を行い、参加者からは「竹を間伐するのは想像以上に変な音で切ったけど、切るときのミシミシとした音や倒れる時の迫力はとても面白かった」という感想がありました。

実際に竹林整備をすることで分かる間伐の重要性や魅力を共有できて、嬉しく思います。



竹を切った時の達成感が最高！

竹のお皿でカレー！



切った竹でお昼ご飯に使うお皿を作り、モリビトの会さんが作ってくださったカレーを竹のお皿に盛って参加者全員で食べました。自然の中で食べるカレーは普段よりも何倍もおいしく感じました。

取組・活動
02

企業とコラボして、竹炭消臭GOODSを製作

トヨタ産業技術記念館から織機実演で出来た布を譲ってもらい、トヨタ自動車㈱のボランティアの皆さんとご家族と一緒に消臭GOODSの袋を手縫いで製作しました。

縫いものが得意な方は繊細な刺繍に挑戦し、苦戦していた方は学生が教えながら一緒に作業し、それぞれの個性が光る消臭GOODSの袋を作ることができました。

これまでは自分たちのみで製作してきましたが、今回は小学生から社会人まで色々な年齢層の方に参加してもらうことができました。また、消臭袋を作りながら、楽しくお話をしながら竹林整備の必要性も伝えることができ、貴重な時間となりました。



集中していたら時間があっという間！



取組・活動
03

vivid maoさんのアート作品×竹炭消臭GOODS コラボ商品製作



障がい者支援事業を行うNPO 法人じゃんぐるじむさんにご協力いただき、アーティストのvivid maoさんの作品を使用した消臭GOODSを製作し、エシカル・ツキイチ・マルシェで販売しました。

この活動を通して、私たちが作った竹炭が環境問題の解決だけでなく、就労支援として社会に貢献できることを確かめることができました。vivid maoさんの鮮やかなイラストのおかげで、大人の方だけでなく、子どもも赤ちゃんも手に取っていただけました。

活動を終えて

今回のプロジェクトに参加された方々から、「もう一度参加したい」、「リフレッシュできた」などの意見をたくさんいただきました。まず楽しんでもらったことを何よりも嬉しく思います。

また、vivid maoさんとコラボできたことで、消臭グッズをより魅力的にすることができました。今後は商品の更なる改良を重ね、より多くの方にこの取組を知っていただけるよう、さらに力を入れて活動していきたいです。



先生からのコメント 愛知淑徳大学 コミュニティ・コラボセンター（CCC） 秋田有加里



間伐した竹を炭にしたものを商品として販売し、そこで得た資金を活動先や福祉施設に循環させることにチャレンジしました。多くの方々に関わっていただくことで彼らは大変成長しました。発展途上ではありますが、今後も諦めずブラッシュアップできたらと思います。

取組アイデア名

学生主体のエコアクションで海洋プラスチックゴミ問題の意識を高めるプロジェクト



AZ CONNECT (中京大学)

Instagram @azconnect_plogging

AZ CONNECTは【「A」=最初から「Z」=最後までつなぐ】を表し、①プロギングを通じて年齢や立場の垣根を越えた人をつなぐ、②拾ったゴミからアップサイクルするという意味を込めて命名しました。中京大学スポーツ科学部の学生11名で活動しており、様々な企業や団体の皆さまと一緒にプロギングイベントを実施しています。

取組の概要、目的

2050年には海洋ゴミの量が魚の量を超える^{※1}といわれている現状に危機感を持ち、世間の海洋プラスチックゴミ問題の意識を高めることを目的に、①プロギングイベントの企画（ゴミ拾いとジョギングを掛け合わせたスポーツ）、②影響力のあるイベントでの発表、③アップサイクル（ペットボトルゴミをTシャツへ）の3つのエコアクションに取り組みました。

※1 参考: World Economic Forum
"Every minute, one garbage truck of plastic is dumped into our oceans. This has to stop" (Oct 27, 2016)

取組・活動 01

年齢や立場の垣根を越えたプロギングイベントの開催

プロギングの魅力は、①楽しみながら地球をきれいにできる、②健康促進につながる、③たくさんの人と繋がれる、の3点です。これらの魅力を押し出すことで、企業や団体を巻き込み、小学生や社会人といった年齢・立場の垣根を越えたイベントを、計20回実施することができました。

プロギングを体験することで、「ゴミ捨てをやめる」「ゴミを分別する」などの意識の変化が起こったとの声をたくさんいただいています。



4チームで16.4kg
3チームで6.5kgの成果

左はトヨタ自動車(株)の社員の皆さんとのプロギングイベント、右は(一社)JUNTOS様(外国籍児童の学習支援団体)とのプロギングイベントの様子です。年齢、立場の垣根を越えた交流を実現し、海洋ゴミ問題に対する意識の啓発を行いました。

取組・活動 02

名古屋六大学合同プロギング

2024年11月に6大学^{※2}を集め、合同プロギングを実施しました。計61名の学生が参加し、大学を越えた交流を実現させるとともに、9.8kgのゴミを集めることができました！

イベントでは、街のゴミに触れるだけでなく、海洋ゴミ問題をクイズで学ぶ機会も設け、より学びに繋がるように工夫しました。

※2 名古屋大学、名古屋工業大学、名古屋市立大学、中京大学、南山大学、名城大学



取組・活動 04

ペットボトルゴミをTシャツへアップサイクル

日本のマテリアルリサイクル率^{※3}は20%程度^{※4}といわれている現状を踏まえ、プロギングイベントで回収したペットボトルをTシャツにアップサイクルしようと考えました。

漂着ペットボトルを糸にアップサイクルした実績のある豊島(株)様のご協力のもと、2025年4月～6月頃の完成を目標に、Tシャツの製作に取り組んでいます。実際に拾ったゴミを使って製作できる業者さんを探すのに苦労し、一時は断念しようかと考えたときもありましたが、豊島(株)様のおかげで、実現に近づけることができました。

※3 廃棄物を原料とした新たな製品へのリサイクル

※4 参考: 一般社団法人プラスチック循環利用協会 「プラスチックリサイクルの基礎知識」

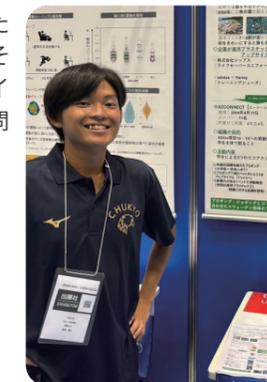
取組・活動 03

影響力のあるイベントでの発表

AZ CONNECTが行ってきた活動を、多くの企業や行政そして一般の方に伝えられるイベントに参加し、海洋ゴミ問題について発信してきました。

参加したイベント /

- ▶ SPORTEC2024
- ▶ 環境デーなごや
- ▶ SDGs AICHI EXPO 2024
- ▶ アジア・アジアパラ競技大会 2年前イベント(4会場)



オリジナルTシャツを着て海洋ゴミ問題にアプローチ!



活動を終えて

AZ CONNECTは2024年4月の設立以降、1年間活動してきた結果、プロギングや展示会を通じて小学生から社会人まで多くの人々へ海洋ゴミ問題について伝えることができ、参加者の意識を高めることができました。

今回のみで終わるのではなく、AZ CONNECTは次の運営メンバーが新たに目標を立て、2025年以降もたくさんのパートナーとともに、多くの人々に海洋ゴミ問題について伝え、意識の啓発をして行く予定です。



先生からのコメント 中京大学 スポーツ科学部 准教授 芦塚 倫史



AZ CONNECTのプロギングは、大学生主体の「持続可能な社会を実現するための実践」です。中京大学芦塚ゼミの活動から始まりましたが、今や他大学や地域社会へと広がっています。今後ますますの活動の発展に期待しています。

取組アイデア名

Vegeel:規格外野菜とウナギの頭を使って保護犬を元気に!



中京大学経営学部齊藤ゼミ



私たちのゼミでは、2年次に経営指標を用いた財務分析、3年次にはチームに分かれて1年を通して新規事業の企画立案を行っています。今回の取組で立案した事業を第24回東三河ビジネスプランコンテストに応募し、アイデア部門で最優秀賞を受賞しました。

取組の概要、目的

社会問題解決・認知度向上と保護犬団体の食費負担軽減を目指すため、規格外野菜、ウナギの頭、おからを使った、犬も人間も食べられるおやつ「レスキュークッキー」を開発しました。

おやつ製造にあたっては、認知度が低く、仕事不足の現状がある就労継続支援B型事業所に委託し、愛知県の保護犬団体への無償提供及び一般家庭への販売を行うことで、問題解決にアプローチしました。

取組・活動 01 フードロス削減

おやつ材料には、試作品の製造を重ね、フードロス削減につながるものを選びました。愛知県はウナギ生産量全国2位を誇る地域ですが、ウナギの頭が大量に廃棄される現状^{※1}があります。また、規格外野菜の廃棄量は年間1,650トン(約11億円の価値に相当)^{※2}にのぼりますが、規格外野菜への関心が低く、廃棄を減らすことが難しい状況です。さらに、廃棄されるおからのうち、食用に転換される割合はわずか1%^{※3}にすぎません。これらを材料として使用することで、廃棄物の有効活用と食用転換率の増加を目指しました。

※1 参考: 榎比呂野への聞き取り調査
※2 参考: JAひまわりへの聞き取り調査
※3 参考: 日本豆腐協会「食品リサイクル法に係る発生抑制」

私たちの取組を個別に説明をしに行き、趣旨をご理解いただけたことで、榎おとうふ工房いしかわさんからはおからパウダー、榎比呂野さんからはウナギの頭(UNATO)を提供していただくことができました。



たくさんの方に材料を提供していただきました!



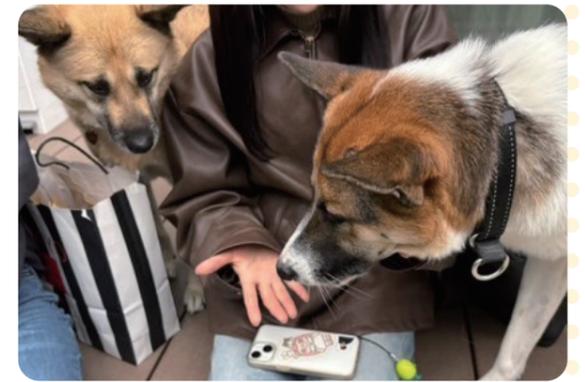
取組・活動 02

保護犬の食費負担軽減と健康促進

愛知県の保護犬数は全国平均と比較して約2倍^{※4}に達しているほか、保護犬団体の運営における出費のうち食費が大部分を占めており、大きな負担となっています。そこで、私たちはおやつを保護犬団体に寄付または低価格で販売することで、食費負担の軽減を目指しました。さらに、団体の協力のもと、一般家庭への販売の機会も得ることができました。

また、使用した材料にはカルシウムや食物繊維、動物性たんぱく質やビタミンが含まれているので、高齢犬や食欲低下犬でも食べられる優しいおやつを届けることができました。

※4 参考: 環境省「犬・猫の引取り及び負傷動物等の収容並びに処分の状況」



取組・活動 03

障がい者の就労支援



愛知県では全国平均と比較して約2倍^{※5}の就労継続支援B型事業所がありますが、その存在が十分に知られておらず、仕事不足の現状に直面しています。そこで、事業所におやつ製造を委託することで、仕事の機会を創出することができました。

ウナギの頭による匂い等で、製造を受けてくださる事業所に限りがありましたが、多くの事業所へお声がけをすることで製造に繋げることができました。この活動を積極的に発信することで、事業所の認知度を高め、多くの人々に存在を広めていきたいです。

※5 参考: 愛知県「あいち障害者福祉プラン2021-2026」、一般社団法人ジシン「障がい者就労支援情報 ~全国版~」



活動を終えて

私たちは、様々な社会問題の解決と、犬にとっての「あたりまえの幸せ」の実現を目指し、引き続き保護犬団体の支援に尽力してまいります。そして、今回の活動にあたり、ご支援くださった榎比呂野様、榎おとうふ工房いしかわ様、農家の長尾様、就労継続支援B型事業所のモーヤーコ様、日進市農政課様、そして愛知県企画課の皆さまに、心より感謝申し上げます。皆さまのお力添えを励みに、これからも真摯に取り組んでまいります。



先生からのコメント 中京大学 経営学部・准教授 齊藤 毅

Vegeel projectは、社会問題の相互関連性に着目し、複数問題の包括的な解決を試みたユニークな活動です。多くの方々の支援があり、愛知県、日進市、保護犬団体、材料の供給企業・農家様など、関係者の方々にこの場を借りて心から感謝申し上げます。



Vol. 05
アレルギー対応の飲食店を検索するアプリを開発

取組アイデア名
食の総合情報アプリ「DISH WITH」の開発によるSDGs未来都市への貢献



FoodTube 「DISHWITH project」

取組・活動 02 活動の輪を広げる食の情報発信と交流

独自SNSで交流も！

掲載店舗との交流を深めるために、私たちの理念を伝えるパンフレットを作成しました。また、アレルギーに関する消費者庁作成のパンフレットを掲載店舗に配布し、飲食店におけるアレルギー対応の重要性を伝えることができました。

さらに、DISH WITH独自のSNS（アプリからアクセス可）を運営し、食に関する情報発信を行うとともに、同じ志を持つメンバーと交流できる場を提供することで、活動の幅を広げています。SNSを通じて多くの人に私たちの取組を知ってもらい、食の安心・安全を推進していきたいです。



取組・活動 03 フードバンクの開設

NPO法人あいちかすがいっご様の協力のもと、フード回収ボックスの設置活動を始めました。地域の不要食材を必要としている方へ届けることで、地域の支え合いを促進するとともに、より多くの人々が支援に参加できる環境づくりを進めることができました。



取組・活動 04 地産地消のためのイベント開催



福津農園様に協力いただき、地産地消や有機野菜を学ぶイベントを開催しました。地域の食材を活用する大切さを学び、持続可能な社会に近づけることができました。

今後も地元の生産者と連携し、地域に根ざした食の選択肢を増やしていきます。

FoodTube (中部大学・南山大学・中京大学)

@dish_with @dishwith00

「誰ひとり取り残さない」というSDGsの理念を実現し、食を通じて社会をつなぎ、持続可能な社会を目指すというVISIONのもと、食を通じてよりよい愛知県にするための取組をしています。

取組の概要、目的

アレルギーにより外食に不自由な思いをした実体験から、アレルギーを持つ方が外食時に困らない社会を実現するため、愛知県内の飲食店のアレルギー対応情報を可視化するアプリ「DISH WITH」を開発しました。

食に制限のある方が安心して食事を楽しめる環境を整えるとともに、フードバンクの開設や地産地消の推進など、食を通じて地域の社会課題の解決にも取り組みました。

取組・活動 01 誰もが安心して食事を楽しめるアプリ「DISH WITH」

「DISH WITH」には、飲食店のアレルギー対応情報（使用アレルゲン検索、メニューのアレルゲン表記・説明方法など）を詳細に掲載し、ユーザーが安心して食事を選べるようサポートします。

アプリ開発の裏では、開発方法の模索に苦労しましたが、ありがたいことに協力者を得られ、前進しました。また、店舗の掲載の協力依頼をするため、約40店舗に足を運んで地道な説明を重ねました。取組を通してグループの結束力も強くなりました！引き続き、飲食店と消費者をつなぐ架け橋となることを目指します。



だれもが安心して外食を楽しめる社会へ



写真は、「DISH WITH」のアプリ画面と飲食店訪問の様子です。アレルギー対応飲食店の情報が一目でわかるUIで、利用者が安心して外食を楽しめるよう工夫しました。また、飲食店との交流を重ね、情報の充実に努めています。

活動を終えて

この活動を進める中で数々の困難がありましたが、メンバー同士で励まし合い、賛同し協力してくださった飲食店の皆さま、貴重なアドバイスをくださった先生方、そして行政の方々等、多くの方の応援があったからこそ実現できました。DISH WITHを形にするために尽力してくれたアプリ開発メンバーにも、心から感謝しています。

食の選択肢を広げ、誰もが安心して食事を楽しめる社会を目指し、共に歩んでくださった皆さまに感謝します。この取組が、少しでも多くの人々の未来につながることを願います。



アプリ「DISH WITH」を使用するには…

App Storeから「dishwith」と検索し、ダウンロードしてください。または、右記の二次元コードを読み取ることで、App Storeにアクセスすることができます。



先生からのコメント 中部大学 中部高等学術研究所/国際ESD・SDGsセンター・准教授 古澤 礼太

17色で彩られたSDGsロゴの輪の中心に「食」を置いてみると、食に関わる様々なゴールとの関連が見えてきます。DISH WITHが、食の持続可能性に関する包括的な情報プラットフォームになることを期待します。

あいちユース SDGs IDEA & ACTION

SDGsアドバイザー

株式会社Comodo LABO

加藤 美奈(右)
金子 彩(左)

この一年間、学生の皆さんはSDGs達成に向けて積極的に取り組み、アイデアを具体的な形にし、地域社会に貢献する事業を展開しました。特に、パートナーシップを築きながら協力し合う姿勢が光り、持続可能な未来に向けた大きな一歩を踏み出したと感じています。アドバイザーとして参加できたこと、共に成長できたことを誇りに思います。来年からは、さらに学生の皆さんの主体性が強まり、引き続き多くの人々と連携して社会実装を進めていくことを期待しています。



株式会社Comodo LABO プロフィール
愛知県を中心として、企業のSDGsへの取組等、環境・社会貢献事業を専門とする企画会社。環境学習のプロデュースや環境レポートの制作を行う。「2024愛知環境賞 銀賞」受賞。



事務局

株式会社マルワ

マーケティング部 小島 知浩

事務局として主に活動資金のプロセス管理を通して、皆さんの取組を支援させていただきました。何度も記入やエビデンスをお願いしてしまい、事業を実施する際には、どんなに良いアイデアでも、しっかりとした予算計画がないことには実現していかない、ということを実感していただけたかと思います。当事業は一区切りとなりますが、持続可能な取組を続けていただく一助となりましたら幸いです。

プロフィール

2016年より広報・宣伝担当として、同社の持続可能な取組の啓発活動に携わる。内外のステークホルダーとの連携による様々な商品開発を企画し、社会課題解決につながる価値をさらに広めるべく、2024年よりマーケティング活動も担っている。

総合サポーター

愛知県政策企画局企画調整部企画課

鯉口 美奈

皆さんのアイデアの実現に向け、進め方を中心にアドバイス等をしながら、伴走支援をさせていただきました。思うようにいかないときも行動し続けた皆さんの思いの強さが、成功につながりました。皆さんの取組は、大学の後輩を始め、他の学生たちが社会課題の解決に向けた思いを行動に移すきっかけになることと思います。今回の取組を糧に、さらなるステップアップを期待しています。

プロフィール

2023年度に「愛知県と民間企業等との人事交流制度」により民間企業*から愛知県に出向し、企画課にてSDGsの普及啓発や取組促進業務に携わる。2024年度に「あいちユース SDGs IDEA & ACTION」を企画し、担当者を務めた。

※あいおいニッセイ同和損害保険㈱



サポーターコメント

SDGsの達成に向けた愛知県の取組

愛知県SDGs未来都市計画

愛知県は、2019年7月に内閣府から「SDGs未来都市^(※)」に選定されました。経済・社会・環境をめぐる幅広い課題に一体的に取り組みながら、すべての県民の皆さんと一緒に持続可能な社会を目指しています。



愛知県SDGs登録制度 AICHI SDGs PARTNERS あいちSDGsパートナーズ

SDGsの達成に向けて取り組む企業・団体等を登録し、その取組を「見える化」するとともに、登録者のSDGsに関する具体的な取組を促進することを目的とした制度です。登録すると、SDGsの取組を進める上で様々なメリットがあります。

登録のメリット

- ・木製登録証・ロゴマーク・バナーの贈呈
- ・専用ウェブサイトでのSDGs達成に向けた取組の紹介
- ・登録者のマッチング支援（登録者同士のマッチングや新たな取組の創出を図る交流会の開催等）
- ・愛知県におけるSDGsに関するトピックス、先進事例等を紹介するメールマガジンの配信

こちらより登録ができます
愛知県SDGs登録制度
「あいちSDGsパートナーズ」

